



一 伸 耐震改修促進計画 の取組状況は

現状は

質問

一般住宅と特定建築物の耐震化の現状及び耐震診断と耐震改修の助成状況について伺う。

市長答弁

耐震化の現状については、木造住宅の耐震診断、設計、改修に対して補助制度を設けており、耐震化率は、平成19年度末で一般住宅が64%、特定建築物のうち市有物件が68%、それ以外が45%となっている。



立 天候不順による 農作物への影響は

本市における 稲作の作況予測は

質問

本市における稲作の作況予測、病害虫の発生と被害及び熊の出没状況について伺う。

市長答弁

本年の作況予測については、8月15日現在、県全体では「平年並み」、上越地域が「やや不良」と公表されており、本市も同様な状況と考えている。

病害虫の発生については、定期的な観察の結果から、管

耐震診断と耐震改修の助成状況については、平成18年から平成21年度前期までの診断は83件、今年度から新たに始まった補強設計は1件となっている。



理は適切な範囲であり、問題となる被害の報告もない。熊の出没については、報告状況では例年と同程度とらえている。



並行在来線と 大糸線の存続は

質問

県の並行在来線第3セクタ

新エネルギーの 利用促進は

質問

新エネルギー導入の実績及び合併後の新市における新エネルギービジョンの策定の必要性について伺う。

市長答弁

導入実績については、太陽光発電は市立小学校1校、公民館1館及び高齢者共同住宅1棟に既に設置している。風力発電については、能生地域に市営で2基設置しており、

並行在来線・大糸線存続に対する市民の盛り上がりに向けての取り組みについて伺う。

市長答弁

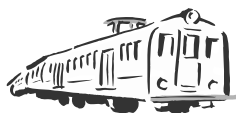
県の3セク経営の考えと市の要望については、開業準備協議会で、経営が成り立つように検討するとともに、その支援について国へ要望している。

並行在来線及び大糸線存続に向けた市民の取り組みについては、いずれの路線も沿線住民の重要な生活路線・観光路線であることから、活用促進につながる各種イベ

木くずを活用したバイオマス発電は、企業1社が取り組んでいる。

新エネルギービジョンの策定については、旧糸魚川市及び旧能生町が策定した「地域新エネルギービジョン」を踏まえ、近年、新エネルギー・産業技術総合開発機構をはじめとした研究機関等から、最新の技術情報入手することができると、新たなビジョンは策定しない。

ントの実施等について、JR西日本や市民と一緒に頑張って取り組んでいる。



《その他質問項目》

- ・文化・スポーツ等で市に功績のあった市民に対しての褒賞
- ・バス路線外のスクールバス等通学の確保